

山梨市：医療と介護の連携

施策・事業の展開の方向

在宅医療と介護の連携の推進

山梨県地域医療構想では、峡東構想区域の慢性期医療病床数を、2025年までに450床減少すると計画しています。そのため在宅医療の体制強化が求められています。

高齢者が、住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、市立牧丘病院に設置した在宅医療と介護の連携推進拠点「サポートやまなし」とともに、医療と介護サービスを一体的に切れ目なく提供できる体制づくりを行います。

施策・事業	内 容
地域の医療・介護資源の把握	●地域の医療・介護資源のリストを作成・更新し、市民への情報提供や関係者との連携に活用します。
在宅医療・介護連携の課題の抽出と対応策の検討	●「山梨市の在宅医療と介護を語る会」を継続して開催します。 ●課題の抽出と対応策の取り組みについて話し合い実現を図ります。
切れ目のない在宅医療と介護の提供体制の構築推進	●在宅医療と在宅介護が一体的に提供できる体制の構築を目指して「山梨市の在宅医療と介護を語る会」や医師会と連携して取り組みを検討します。
医療介護関係者の情報共有の支援	●「サポートやまなし」で管理運用している医療と介護の連携システム「サイボウズライブ」を継続して活用します。
在宅医療・介護連携に関する相談支援	●「サポートやまなし」を中心に医療・介護の関係者の相談支援を継続します。
医療・介護関係者の研修	●「サポートやまなし」に委託し医療・介護関係者の合同研修会を継続して実施し、多職種連携を強化します。
地域住民への普及啓発	●毎週1回市役所内で「サポートやまなし」による「医療と介護のなんでも相談」を継続して実施し、市民が気軽に立ち寄り医療と介護に関する不安を解消できる場とします。 ●講演会や出前講座の実施を「サポートやまなし」に委託し、在宅医療に関する市民への啓発を行います。
在宅医療・介護連携に関する関係市町村の連携	●広域的な連携が必要な事項については、今後も県や近隣市との協議を継続します。

山梨市在宅医療・介護連携推進事業イメージ図

在宅医療・介護の連携推進拠点

サポートやまなし

【職員体制】

医師、医療ソーシャルワーカー

【業務内容】

- ① 在宅医療・介護連携に関する相談支援(オ)
- 医療介護関係者の相談窓口→牧丘病院
市民向け相談窓口→市役所本庁舎・牧丘病院
- ② 医療介護関係者の研修(カ)
- ③ 地域住民への普及啓発(キ)
- ④ 医療介護関係者の情報共有の支援(ク)

委託

行政 地域包括支援センター

(健康増進課・福祉課)

医療・介護の資源マップ作成
(ア)

切れ目のない在宅
医療と在宅介護の
提供体制の構築
(ウ)

<医療>

連携

<介護>

連携



病院

入院・退院

主治医(在宅医等)
訪問看護ステーション
歯科医
歯科衛生士
薬局

訪問診療
訪問看護等



市民(患者・家族)

介護サービス

介護サービス

介護サービス事業所
(居宅系サービス)

介護サービス事業所
(施設系サービス)

在宅医療・介護連携の課題抽出(イ) 在宅医療・介護連携に関する関係市町村の連携(ク)